

# チベットにおける折衷主義の価値

——19世紀の Ris med 運動に関する研究——

DEROCHE Marc-Henri

## 1 はじめに

Ris med 運動は、故 E. Gene Smith 氏 (1936–2010) の先駆的で明快な論述によってあらゆるチベット学研究者の知る所となった (Smith 1970; 2001)。本稿では、彼の功績に敬意を表しつつ、Ris med 運動の歴史、資料、哲学に関する主な研究成果をより正確に整理して述べ、さらに新しい視点を加筆したい。特に、「修行系譜の八大車」(sgrub brgyud shing rta chen po brgyad) に関する研究は Ris med 運動における折衷主義の本質の理解に資する点重要である。

## 2 19世紀の東チベットにおける Ris med 運動の歴史と定義

### 2.1 Ris med 運動における三人の指導者 : mKhyen Kong mChog sde gsum

この運動は、以下の人物によって指揮された。

- ① この活動の提唱者であり、瑜伽行者でもあった 'Jam dbyangs **mKhyen** brtse'i dbang po (1820–1892)<sup>(1)</sup>
- ② 主要な編纂者であった 'Jam mgon **Kong** sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899)<sup>(2)</sup>
- ③ 上記の二人と共に gter ma の啓示を発見した **mChog** 'gyur bDe chen gling pa (1829–1870)<sup>(3)</sup>

彼らはそれぞれチベット仏教におけるサキャ派、カギユ派、そしてニンマ派に属していた。

### 2.2 デルゲ王国における Ris med 運動のネットワークと活動

「運動」とは、各々の仲間とのネットワークによって成し遂げられた先述した三人の宗教的「活動」を意味する。というのも、「Ris med 派」というものが組織的に確立されたわけではなく、指導者たちはみな異なる組織に属し続けていたからである。

ラサに置かれたガンデン・ポタン政府からは遠く離れたデルゲ王国<sup>(4)</sup>を本拠地とする多宗派・多民族主義を掲げる組織が、Ris med 運動が起る社会・政治的状况を生み出した (Samuel 1993, 553; Hartley 1997)。これは、ゲルク派の支配下にあった時代、ニンマ派、サキャ派、カギユ派、そしてある次元においてはボン教の伝統さえも含むチベットのより古い仏教の伝統における最後の大規模な文芸復興運動とも言うことができる。

## 2.3 Ris med の定義

Ris med という言葉それ自体は、偏見のない広い心でいることや寛容さといった一般的な仏教の理想を表わしている。偏見 (ris, phyogs あるいは phyogs ris) の否定 (med) と捉えると、この言葉は限界のないこと、または sūtra か tantra か、ニンマ派かサルマ派かといった仏教教義における特定の局面、あるいは他の宗派に対して特定の宗派といった観点において、あらゆる局部性を超越しようとする姿勢を表わしているとも考えられる。従って ris med とは、より直訳的にいうと「不偏」(impartial) と解釈できる。すべての仏教教義と伝統を包括することを試みていることから、ris med とは「普遍的」(universalist) あるいは「折衷的」(eclectic) とも解釈され得る。個々の宗派の独自性を越えた仏教教義の真髓を重要視することから、「無宗派主義」(non-sectarian) と言えるだろう。

そうであっても、Gene Smith 氏の選んだ non-sectarian という言葉は、「宗派には属さない」(having no sect) ことを意味するものではない点に注意しなければならない。ris は、宗派ではない。チベット語で宗派とは chos lugs, つまり「dharma の伝統」である。従って、ris med の日本語訳として「無宗派」という言葉が果たして的確であるのかを問う必要があるのかもしれない。ris med とは、主にある特定の宗派に属しながらも、派閥心を強く持たず、つまり自身の宗派に縛られることなく、他の宗派に対しても敬意を持ち、交流を行っていくことを意味している。

## 2.4 宗派主義と融合主義の中道としての折衷主義

ディドロ (Diderot) とダランベール (D'Alembert) によるフランスの『百科全書』(*Encyclopédie*) の中に述べられている定義を参照すると、「折衷主義」(“Éclectisme”, Vol. 5, 270–71) という表現が、この運動の実際の内容をうまくあらわしている。すなわち、Ris med 運動は、過激な融合主義と宗派主義の両者を超越した中道であったように思われる。つまり、異なる伝統を混同することなく、それらの伝統の異なる系譜 (brgyud) を集めつつも、それぞれの独自性を保持したということである。

# 3 修行の八系譜の分類, Ris med 運動の折衷主義のモデル

## 3.1 代表的な Ris med 運動の書: *gDams ngag mdzod*

Kong sprul が Ris med 運動の活動における主要な編纂者であったことは先に述べたが、彼の著作である五大宝蔵 (*mDzod chen lnga*)<sup>(5)</sup> は大変興味深く、Smith 氏 (2001, 264) によると、特に *gDams ngag mdzod* (DNgDz) は Ris med 運動の本質を理解するために最も重要な書物である。

## 3.2 *gDams ngag mdzod* のモデル, 修行の八系譜

Kong sprul は DNgDzK の中で DNgDz がモデルとしているものを明らかにしており、それはチベット人である Prajñāraśmi によって分類された「修行系譜の八大車」である (Kapstein

## —チベットにおける折衷主義の価値—

1996; 2007; Ringu 2006)<sup>(6)</sup>。それらはインドからチベットに伝えられた密教の修行における主要な系譜であり、次の八つが挙げられる。

- ① rNying ma pa: ニンマ派 [の系譜]
- ② bKa' gdams pa: カダム派 [の系譜]
- ③ Shangs pa bKa' brgyud: シャンパ・カギユ派 [の系譜]
- ④ Lam 'bras: 道果 [の系譜]
- ⑤ Mar pa bKa' brgyud: マルパ・カギユ派 [の系譜]
- ⑥ Zhi byed: シチュ派 [の系譜]
- ⑦ sByor drug: [*Kālacakrantra* の] 六ヨーガ [の系譜]<sup>(7)</sup>
- ⑧ rDo rje gsum gyi bsnyen sgrub: 三金剛の勤行と成就 [の系譜]<sup>(8)</sup>

宗義体系 (grub mtha') の観点から言えば、これらの八系譜はニンマ派 (①) とサルマ派 (②～⑧) の両者における最も高度な密教教義 (gdams ngag あるいは man ngag) を伝承している (Mimaki 1994, 121–26, 132)<sup>(9)</sup>。つまり、ニンマ派にとっての atiyoga, サルマ派にとっての無上瑜伽タントラ (rnal 'byor bla na med pa'i brgyud) を伝承しているのである。mKhyen brtse と Kong sprul はこれら八系譜のすべてを受け継いでおり、それらの教えを自らの弟子に完全に、あるいは部分的に伝えることを意図していた。

### 3.3. モデルとしての八系譜の起源, Prajñāraśmi (1518–1584) の sGom pa 'chi med kyi bdud rtsi

Kong sprul が八系譜に関して引用した書の著者 Prajñāraśmi が、'Phreng po gter ston Shes rab 'od zer (1518–1584) に同定されることは、Kapstein 教授 (1996) によって報告された<sup>(10)</sup>。Prajñāraśmi 自身による著作には次のようなものがある。

- ① 釈義 (bshad) の系譜とそれらの十柱に関する *Thos bsam 'chi med kyi bdud rtsi*<sup>(11)</sup>。
- ② 修行 (sgrub) の八系譜に関する *sGom pa 'chi med kyi bdud rtsi* (GCD)。

これら二つのテキストには mKhyen brtse による注釈が存在しており、特に Kong sprul は mKhyen brtse の GCDC を DNgDzK の中で参照している。

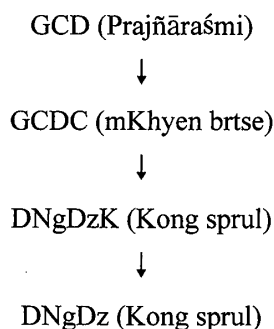


図1 修行の八系譜の分類における伝承

筆者はこれら Prajñāraśmi の著作及び mKhyen brtse の注釈を全文仏訳 (2011)、更に部分的に英文にも翻訳した (2009)。以下に挙げるのは、GCD に基づく修行の八系譜に関する概要である。第一章において Prajñāraśmi は、主要な実践的教誡を与え、またそれぞれの系譜の歴史について言及する。第二章から第五章に至っては、一般的な思想 (Ita ba)、瞑想、八系譜に関する行とその果についての説明を行い、独自の教えを示す。

章	内容	
I 修行の八系	① rNying ma pa <sup>(13)</sup>	[ 印 → 蔵への伝承 :] Śrī Siṃha → Vairocana [ 主要教典 :] rgyud (Mahāyoga)/lung (Anuyoga)/man ngag (Atiyoga)
	② bKa' gdams pa <sup>(14)</sup>	Atiśa → 'Brom ston pa rGya chen spyod pa'i gzhung
	③ Shangs pa bka' brgyud <sup>(15)</sup>	Niguma → Khyung po mal 'byor Cakrasaṃvaratantra
	④ Lam 'bras <sup>(16)</sup>	Gayadhāra (/Gayadhara) → 'Brog mi Hevajratantra
	⑤ Mar pa bka' brgyud <sup>(17)</sup>	Nāropa → Mar pa Cakrasaṃvaratantra
	⑥ Zhi byed <sup>(18)</sup>	Pha dam pa Sangs rgyas → 三系譜 Prajñāpāramitāsūtra, A li ka li chu rlung chen po rgyud <sup>(19)</sup>
	⑦ sByor drug <sup>(20)</sup>	Kālacakrapāda → Gyi co Kālacakratāntra
	⑧ rDo rje gsum gyi bsnyen sgrub <sup>(21)</sup>	Vajrayoginī → O rgyan pa Cakrasaṃvaratantra, Kālacakratāntra
II <sup>(22)</sup> 思想	主要教義 (bstan pa gtso bo): 本質的な智への導入 (gnyug ma'i ye shes rang ngo 'phrod) <sup>(23)</sup>	
III <sup>(24)</sup> 瞑想	主要瞑想 (sgom pa'i gtso bo): 無修無散乱の光明 ('od gsal [...] sgom med ma yengs pa) <sup>(25)</sup>	
IV <sup>(26)</sup> 行	秘密行 (gsang spyod), 儀軌集成 (tshogs), 三種行 (spyod pa'i gsum)[=prātimokṣa, bodhisattva, vidhyādhara]	
V <sup>(27)</sup> 果	究極的な果 ('bras bu'i mthar thug): 仏果 (yan lag brgyad ldan longs spyod sku'i sangs rgyas) <sup>(28)</sup>	
結論 <sup>(29)</sup>		

図 2 GCD の概要

### 3.4 八系譜のモデルの特質—瞑想的な精神と超宗派的系譜—

このモデルの優れた点は、「修行」(sgrub) の「系譜」(brgyud) という二つの要素によって明確に表現されている。

- ① sgrub: 修行または成就といった意味により、師から弟子への直接の教示を通じての経験を重要視している。後に述べるように、このような師弟間の直接の瞑想的取り組みは、チベット仏教に共通した修行の到達点を明らかにしている。
- ② brgyud: Snellgrove 氏 (1987, 486–87) が指摘したように、後期タントラの伝統を基礎としてチベットにおいて現れた宗派である。このように、八系譜のモデルは諸々のチベッ

## ——チベットにおける折衷主義の価値——

トの宗派の根源とその開祖らの瞑想的精神に遡ることができる。

Prajñāraśmi の著作と Ris med 運動において、持金剛仏は修行の八系譜すべてに共通する起源、そして到達点であると言われている<sup>(30)</sup>。

## 4 Ris med の哲学における智の中心的役割

### 4.1 八系譜において重要視される教義としての智

GCD の思想 (Ita ba) に関する章は、智 (jñāna, ye shes) の体得を基礎とする Ris med 運動の根本的な哲学について明らかにしている。そこでは次のように述べられている。

blos byas gzung 'dzin spros pa kun bral ba'i //  
 gnyug ma'i ye shes rang ngo 'phrod pa yi //  
 shes pa gsal d[w]angs rtog med ye shes de //  
 sgrub rgyud kun gyi bstan pa'i gtso bo yin [/]/ (GCD, 254.2-3)

認識によって作り出された主客からなる戲論すべてを離れた  
 本初の智自体が導く、  
 明智そのものである、かの無分別智は  
 すべての修行の伝統の教えの中心である。

### 4.2 Kong sprul の中道

この点は、*Shes bya kun khyab* (SK) の中で明かされる Kong sprul の中観派の宗義体系に反映されている。そこで彼は、Svātantrika に対し Prāsaṅgika、自空に対し他空、sūtra に対し tantra といったレベルを含みつつ、それまでのすべての宗義体系を包摂している (SK, rtsa ba: vol. 1, 76.13–80.7; 'grel ba: vol. 2, 510.2–560.3; [英訳] Jamgön 2007a, 195–273)。彼の枠組みの最高峰では、最終的には、不二智の体得が中心的役割を担っていることが明示される<sup>(31)</sup>。

次に、SK に基づいて Kong sprul の中観に関する宗義を概観したい。熊谷誠慈氏の研究 (Kumagai 2009) に従い、特にタントラに関する分類についてより詳細に検討する。その中で Kong sprul は、上述した Prajñāraśmi と同様、智の価値について詳細に解説している。

——チベットにおける折衷主義の価値——

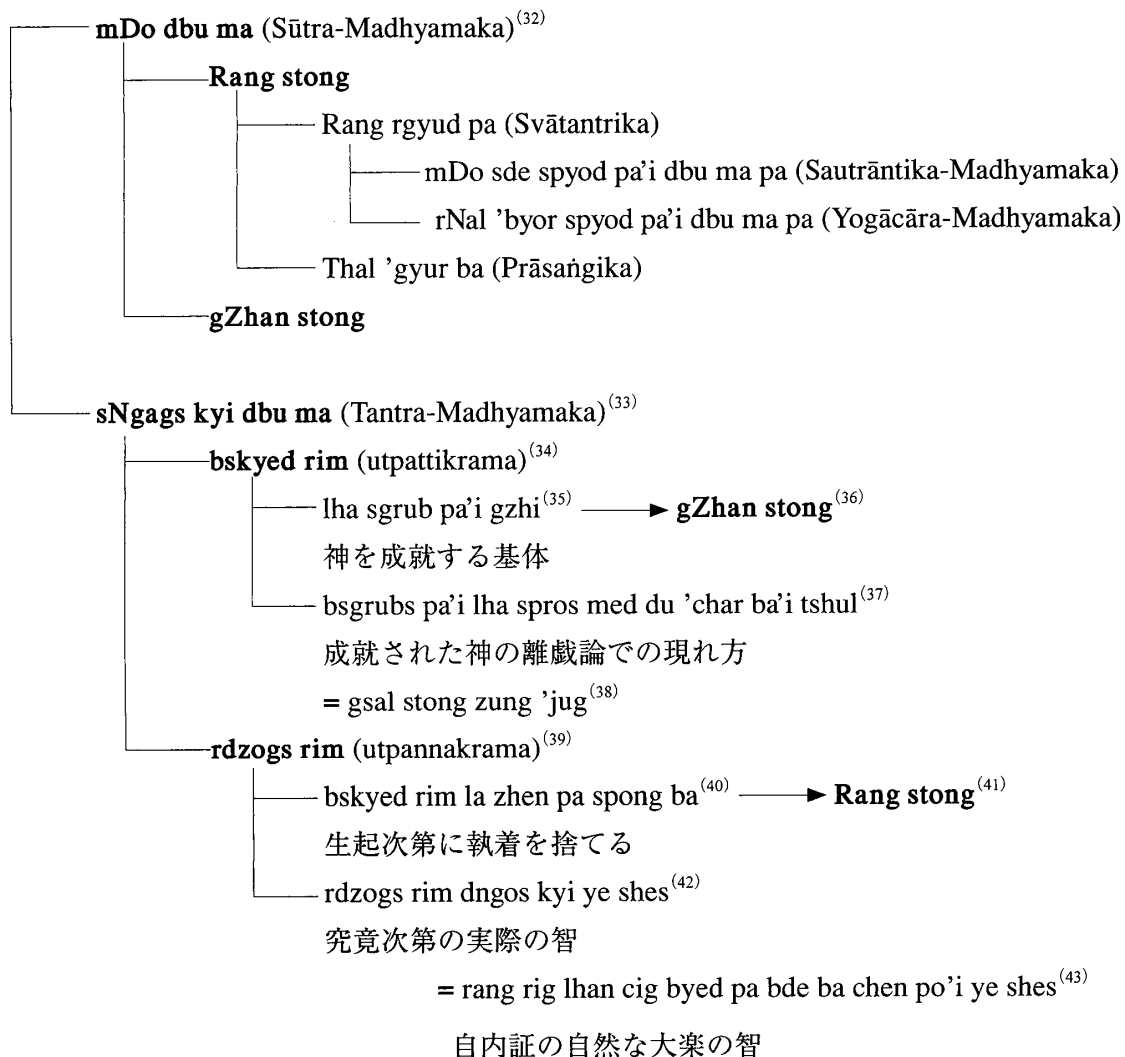


図3 中観派に関するSKの概要

最も興味深いことは、Kong sprulの自空と他空の解説にみられるバランス感である。Kong sprulの折衷主義的中観は自空と他空の「中道」を形成し、常断の二辺を克服している。自空のアプローチが、智を妨げる戯論を断ち切るいっぽう、他空のアプローチは、とくにタントラの文脈で詳述されるのであるが、智の経験を最も明確に記述する。

この両者の結びつきは、とくに二種のタントラ修行の次第、つまり、生起次第と究竟次第を通じて達成される。このことはすでにPrajñāraśmiの作品の中でも説明されている。

de yang bskyed rim gzhan stong smra ba'i lugs //  
 rdzogs rim rang stong lugs bzhin shes nas ni [/]/  
 zung 'brel sgom pa'i theg chen mal 'byor pa //  
 rdo rje 'dzin pa yongs kyi gtsug rgyan yin [/]/ (GCD, 255.2-3)

そして、生起次第たる他空説の伝統を

## —チベットにおける折衷主義の価値—

究竟次第たる自空の伝統と同じように知ってから、  
二つ一組で瞑想する大乘の修行者は、  
すべての持金剛にとっての頭頂の飾りである。

Kong sprul によると、Sūtra-Madhyamaka と Tantra-Madhyamaka は、その対象を離戲論の状態と定める点において、違いがないということも注意を要する<sup>(44)</sup>。

特に Kong sprul の他空については別稿を準備しているが、その要点のみを示すと次のようになる。

- ① Kong sprul はすべての中観の支派を包括し、それぞれに価値を認めている。
- ② 他空は、すべての仏教教義を統合する智の体得を重要視している。

### 4.3 Mi pham の Prāsaṅgika

mKhyen brtse の親近な弟子であった 'Ju Mi pham (1846–1912) は、Prāsaṅgika の方法論を好んで支持した。しかし、Mi pham はその中で離戲論の超越と表現されている智の体得が、同様に中心的価値を持つことにも言及している。Ehrhard 教授 (1988) をはじめとする研究者は、rDzogs chen (大いなる完成) を中心とするニンマ派の伝統における中観の見解を定義するために、Mi pham がいかに Klong chen pa (1308–1364) を参考にしたかという点を論証している<sup>(45)</sup>。

### 4.4 rDzogs chen における知

実際に、Ris med 運動における主要な指導者たちはみな、rDzogs chen の瞑想の教義に献身した修行者であった。この伝統においては、智が普遍的本質として位置付けられている。これが最上の知 (rig pa) であり、そこから涅槃と輪廻の両者が発現するから、「一切を成す王」(kun byed rgyal po) ということになる<sup>(46)</sup>。従って、rDzogs chen における ye shes あるいは rig pa とは、限界のない包括的な状態 (ris med) を意味することになる。

以上のように、rDzogs chen の教義における哲学的本質が Ris med 運動の折衷主義の土台 (gzhi) を成しており (Karmay 2007, 13–14; Samuel 1993, 538; Petit 1999, 99), このような普遍的な観点からすると、すべての仏教教義は仏陀の種々なる方便と見なされている。

## 5 結論

本稿に於ては、Ris med 運動の折衷主義は、チベット仏教の諸宗派 (chos lugs) の根源に遡り、強い瞑想的精神を、それに対応した哲学と共に促していくための方法として、チベットの諸々の修行の伝統 (sgrub brgyud) に比重を置くものであった、という点のみを中心的に述べるに止めた。

将来の研究の展望としては、政治と宗教の混合がチベットに於ける宗派主義の主な原因であるとも考えられるので、政治の中心を遠く離れたデルゲに於ける Ris med 運動の主な指導者たちの背景にあった複雑な政治的状況をより詳細に解明することを目指したい。

## 略号表 (チベット文献)

- ChN Dkon mchog 'gyur med: *Gter chen mchog gyur bde chen gling pa'i rnam thar bkra shis dbyangs kyi yan lag gsal byed*. Hong Kong: Shang kang then mā dpe skrun khang, 2002.
- DGN sDe dge Yab chen Tshe dbang rdo rje 'dzin (b. 1786): *sDe dge chos kyi rgyal po rim byon gyi rnam thar dge legs nor bu'i phreng ba 'dod dgu rab 'phel*. Bir district, Kangra: D. Tsondu Senghe Yorey Tsang, 1994.
- DNgDz 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899): *gDams nag mdzod: A Treasury of Precious Methods and Instructions of All of the Major and Minor Buddhist Traditions of Tibet, Brought Together and Structured into a Coherent System*. 18 vols. Paro: Bhutan, Ngodrup and Sherab Drimay, 1979–1981.
- DNgDzK 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899): *sGrub brgyud shing rta chen po brgyad kyi smin grol snying po phyogs gcig bsdu pa gdams ngag rin po che'i mdzod kyi dkar chag bkra shis grags pa'i rgya mtsho*. In *DNgDz*, vol. 18. pp. 381–547.
- GCD Prajñāraśmi ('Phreng po gter ston Shes rab 'od zer, 1518–1584): *sGom pa 'chi med kyi bdud rtsi*. In *gSung 'bum*, 1 vol. Gangtok: Gonpo Tseten, 1977. pp. 243–66.
- GCDC 'Jam dbyangs mKhyen brtse'i dbang po (1820–1892): *Gangs ri'i khrod kyi spong ba bsam gtan pa rnams kyi snyan du bsrings pa bsgom pa 'chi med bdud rtsi*. In *Collected Works (gSung 'bum)*, 24 vols. Gangtok: Gonpo Tseten, 1977–1980. pp. 347–74.
- GKDz 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899): *rGya chen bka' mdzod: A Collection of the Writings of 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas*. 20 vols. Paro, Bhutan: Ngodrup, 1975–1976.
- KhN1 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899): *rJe bstun bla ma thams chad mkhyen cing gzigs pa 'jam dbyangs mkhyen brtse'i dbangs po kun dga' bstan pa'i rgyal mtshan dpal bzang po'i rnam thar mdor bsdu pa ngo mtshar u dumba ra'i dga' tshal*. In *GKDz*. Vol. 15. pp. 343–577.
- KhN2 Blo gros phun tshogs: *'Jam dbangs mkhyen brtse'i sku phreng gong 'og gi rnam thar*. Pekin: Mi rigs dpe skrun khang, 1994.
- KNgDz 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899): *bKa' brgyud sngags mdzod: A Collection of Precious Initiations and Teachings of the Mar pa bKa' brgyud pa tradition*. 8 vols. Paro, Bhutan: Ngodrup and Sherab Drimay, 1982.
- KRN 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899). *Phyogs med ris med kyi bstan pa 'dun shing dge sbyong gi gzugs brnyan 'chang ba blo gros mtha' yas kyi sde'i byung ba brjod pa nor bu sna tshogs mdog can*. Bir: Tibetan Khampa Industrial Society, 1973.
- NgG 'Ju Mi pham rNam rgyal rgya mtsho (1846–1912): *Nges shes rin po che'i sgron me*. In *Collecting Writings of 'Jam-mgon 'Ju Mi-pham-rgya-mtsho*, 15 vols. Gangtok: Sonam Tobgay Kazi, 1976, vol. 8.
- TSCD Prajñāraśmi ('Phreng po gter ston Shes rab 'od zer, 1518–1584). *Thos bsam 'chi med kyi bdud rtsi*. In *gSung 'bum*. 1 vol. Gangtok: Gonpo Tseten, 1977. pp. 231–42.
- TSCDC 'Jam dbyangs mKhyen brtse'i dbang po (1820–1892). *Gangs ri'i khrod kyi klog pa nyan bshad pa rnams kyi snyan du bsrings pa thos bsam 'chi med bdud rtsi*. In *Collected Works (gSung 'bum)*. 24 vols. Gangtok: Gonpo Tseten, 1977–1980. pp. 327–47.
- RC 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899). *Ris med chos kyi 'byung gnas mdo tsam smos pa blo gsal mgrin pa'i mdzes rgyan*. Kathmandu: Zhe chen bstan gnyis dar rgyas gling, n.d.
- RTDz 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899). *Rin chen gter mdzod chen mo: Treasury of Rediscovered Teachings*. 111 vols. Paro, Bhutan: Ngodrup and Sherab Drimay, 1976–1980.
- SK 'Jam mgon Kong sprul Blo gros mtha' yas (1813–1899): *Theg pa'i sgo kun las btus pa gsung rab rin po che'i mdzod bslab pa gsum legs par ston pa'i bstan bcos shes bya kun khyab*. 3 vols. Pekin: Mi rigs dpe skrun khang, 1982.



## 文献表 (二次文献)

- Barron, R. (trans.)  
2003 *The Autobiography of Jamgön Kongtrul. A Gem of Many Colors*. Ithaca: Snow Lion.
- Deroche, M.-H.  
2009 “Phreng po gter ston Shes rab ’od zer (1518–1584) on the Eight Lineages of Attainment: Research on a *Ris med* Paradigm.” In *Contemporary Visions in Tibetan Studies: Proceedings of the First International Seminar of Young Tibetologists*. Dotson et al. (eds.). Chicago: Serindia Publications. pp. 319–41.  
2011a *Prajñāraśmi (’Phreng po gter ston Shes rab ’od zer, Tibet, 1518–1584): Vie, œuvre et contribution à la tradition ancienne (rnying ma) et au mouvement non-partisan (ris med)*. Paris: unpublished doctoral thesis of the École Pratique des Hautes Études.  
2011b “Sherab Wozer (b.1518 - d.1584).” In *The Treasury of Lives: Biographies of Himalayan Religious Masters*. New York: Rubin Museum of Art, <http://treasuryoflives.org/biographies/view/Sherab-Wozer/8964>
- Dudjom Rinpoche, J. Y. D.  
1991 *The Nyingma School of Tibetan Buddhism: Its Fundamentals and History*. Gyurme Dorje and Matthew Kapstein (trans.). Boston: Wisdom Publications.
- Ehrhard, F.-K.  
1988 “Observations on Prāsaṅgika-Madhyamaka in the rÑing-ma-pa School.” In *Tibetan Studies*. München: Studia Tibetica, Quellen und Studien zur tibetischen Lexikographie, 2. pp. 139–47.
- Encyclopédie*  
Denis Diderot and Jean le Rond D’Alembert (eds.): *Encyclopédie, ou dictionnaire raisonné des sciences, des arts et des métiers, etc.* University of Chicago: ARTFL Encyclopédie Project (Spring 2011 Edition), Robert Morrissey (ed.), <http://encyclopedie.uchicago.edu/> (First edition Paris, 17 volumes of text and 11 volumes of plates, between 1751 and 1772)
- Hartley, L. R.  
1997 *A Socio-Historical Study of the Kingdom of Sde-dge (Derge, Kham) in the Late Nineteenth century: Ris-med views of Alliance and Authority*. Unpublished Master thesis. Indiana University: Department of Central Eurasian Studies.
- Jamgön Kongtrul Lodrö Tayé  
2007a *The Treasury of Knowledge: Book Six, Part Three: Frameworks of Buddhist Philosophy*. Kalu Rinpoché Translation Group, Elizabeth Callahan (trans.). Ithaca, New York: Snow Lion Publications.  
2007b *The Treasury of Knowledge: Book Eight, Part Four: Esoteric Instructions*. Kalu Rinpoché Translation Group, Sarah Harding (trans.). Ithaca, New York: Snow Lion Publications.
- Kapstein, M. T.  
1996 “gDams ngag: Tibetan Technologies of the Self.” In *Tibetan Literature: Studies in Genre*. José I. Cabezón and Roger R. Jackson (eds.). Ithaca: Snow Lion Publications. pp. 275–89.  
2007 “Tibetan Technologies of the Self, Part II: The Teachings of the Eight Great Conveyances.” In *The Pandita and the Siddha: Tibetan Studies in Honour of E. Gene Smith*. Ramon N. Prats (ed.). Dharamsala: Amnye Machen Institute. pp. 110–29.
- Karmay, S. G.  
2007 (1988) *The Great Perfection (rDzogs chen): A philosophical and meditative teaching of Tibetan Buddhism*. Leiden/Boston: Brill.
- Kumagai, S.  
2009 “La classification indo-tibétaine de l’école Mādhyamika selon le *Shes bya kun khyab* de ’Jam-mgon

## ——チベットにおける折衷主義の価値——

- Kong-sprul Blo-gros mtha'-yas (1813–1899).” In *Journal of Indian and Buddhist Studies* (インド学仏教学研究). Vol. 57, No.3. pp. 1273–77.
- Koyasan University, ICEBS, Executive Committee (ed.)  
 2008 *Esoteric Buddhist Studies: Identity in Diversity, Proceedings of the International Conference on Esoteric Buddhist Studies, Koyasan University, 5 Sept. - 8 Sept. 2006*. Koyasan: Koyasan University.
- Mimaki, K.  
 1994 “Doxographie tibétaine et classifications indiennes.” In *Bouddhisme et culture locales : quelques cas de réciproques adaptations. Actes du colloque franco-japonais, septembre 1991*. Fukui Fumimasa and Gérard Fussman (eds.). Paris: École française d’Extrême-Orient. pp. 115–36.
- Orgyen Tobgyal Rinpoche  
 2000 *The Life of Chogyur Lingpa as told by Orgyen Tobgyal Rinpoche*. Tulku Jigme Khyentse and Erik Pema Kunsang (trans.). Kathmandu: Rangjung Yeshe Publications.
- Pettit, J. W.  
 1999 *Mipham’s Beacon of Certainty: Illuminating the View of Dzogchen, The Great Perfection*. Boston: Wisdom Publications.
- Ringu Tulku  
 2006 *The Ri-me Philosophy of Jamgön Kongtrul the Great: A Study of the Buddhist Lineages of Tibet*. Boston/London: Shambhala.
- Samuel, G.  
 1993 *Civilized Shamans: Buddhism in Tibetan Societies*. Washington/London: Smithsonian Institution Press.
- Smith, E. G.  
 1970 “Introduction.” In *Kongtrul’s Encyclopedia of Indo-Tibetan Culture*. Lokesh Chandra (ed.). New Delhi: International Academy of Indian Culture.  
 2001 “Jam mgon Kong sprul and the Nonsectarian Movement.” In *Among Tibetan Texts: History and Literature of the Himalayan Plateau*. Kurtis Schaeffer (ed.). Boston: Wisdom Publications. pp. 235–72.
- Snellgrove, D.  
 1987 *Indo-Tibetan Buddhism: Indian Buddhists and their Tibetan Successors*. Boston: Shambhala.

## 注

- (1) KhN1; KhN2; Dudjom 1991, 849–58.
- (2) KRN; Barron 2003; Dudjom 1991, 859–68.
- (3) ChN; Orgyan 2000; Dudjom 1991, 841–48.
- (4) DGN が Ris med 運動に言及した最初のものと考えられる。
- (5) SK, DNgDz, RTDz, KNgDz, GKDz。
- (6) DNgDz, vol. 18, 405.3–6: spyir gangs can gyi ljongs 'dir **sgrub brgyud** kyi ring lugs su 'dren pa che phra mang du byung bar snang yang / gtso bo'i rigs bsdu ba'am rkang tshugs pa ni **shing rta chen po brgyad du grags pa rnam** yin te / mkhas grub chen po **Pra dznyā rasmis** / rgyal bas lung bstan gangs can 'gro ba'i mgon // gcig tu bstan pa 'ba' zhig nyer dgongs pa'i // sngon gyi chos rgyal lha gcig bstan po de // gangs ri'i khrod 'dir ston pa gnyis pa yin // zhu chen lo tsā pa gor bai ro dang // rgyal ba'i gdung 'tshab 'brom ston u pa sī // mkhas grub chen po khyung po rnal 'byor pa // skad gnyis smra ba bla chen 'brog mi dang // rnal 'byor dbang phyug rje btsun mar pa'i zhabs // grub pa'i sar bzhugs dam pa rgya gar dang // gyi gyo lo tsā mkhas grub o rgyan pa // byang phyogs sgrub brgyud 'degs pa'i ka chen brgyad // dpal ldan rdo rje 'chang nas legs 'ongs pa'i // gangs ri'i khrod 'dir **sgrub brgyud ka chen brgyad** // de dag grub thob gong ma'i gshegs shul yin // thar 'dod rnam kyang lam de'i rjes su zhugs // (GCD,

## —チベットにおける折衷主義の価値—

244.3–246.1; GCDC, 348.3–349.1)

チベットにおける主要な修行の系統の起源である八柱 (ka chen brgyad) は次の通りである : 1. Pa gor Vairocana (8 世紀); 2. 'Brom ston pa rGyal ba'i 'byung gnas (1005–1064); 3. Khyung po rnal 'byor Tshul khriims mgon po (circa 1050–circa 1140); 4. 'Brog mi lo tsā ba Śākya ye shes (992/993–1043/1072); 5. Mar pa lo tsā ba Chos kyi blo gros (1012–1097); 6. Pha dam pa Sangs rgyas (1117 年滅); 7. Gyi gyo [co/jo] Zla ba'i 'od zer; 8. O rgyan pa Rin chen dpal (1230–1309).

八系統は SK においても言及されている, vol. 1, 32–36 (rtsa ba), 508–55 ('grel ba); vol. 1, 109–18 (rtsa ba); vol. 3, 275–464 ('grel ba); vol. 1, 508: bod kyi yul 'dir **sgrub brgyud** kyi ring lugs 'dren pa che phra du ma byung yang gtso bo'i rigs su bsdu na **shing rta chen po brgyad** de / snga 'gyur rnying ma / bka' gdams pa / lam 'bras pa / mar pa'i bka' brgyud / shangs pa bka' brgyud / zhi byed yan lag dang bcas pa / sbyor drug pa / rdo rje gsum gyi bsnyen sgrub pa'i lugs rnams so // 及び Jamgön 2007b を参照。

- (7) 六ヨーガとは *Kālacakratāntra* の究竟次第の六ヨーガ (1. *pratyāhāra*, *sor sdud*; 2. *dhyāna*, *bsam gtan*; 3. *prāṇāyāma*, *srog rtsol*; 4. *dhāraṇā*, *'dzin pa*; 5. *anusmṛti*, *rjes dran*; 6. *samādhi*, *ting nge 'dzin*). Deroche 2009, pp. 331–32, 335 参照。
- (8) 三金剛とは身の金剛 (*kāyavajra*, *sku'i rdo rje*), 口の金剛 (*vāgvajra*, *gsung gi rdo rje*), 意の金剛 (*cittavajra*, *thugs kyi rdo rje*)。 Deroche 2009, pp. 332, 335 参照。
- (9) SK, vol. 3, 276 : [rtsa ba] gangs ri'i khrod 'dir **man ngag** gtsor byed pa'i // **sgrub brgyud brgyad** las / ['grel ba] / zhes pa ste / gangs ri'i phreng bas bskor ba'i khrod bod kyi yul 'dir sgom pa nyams su len pa thams cad mdo sngags gnyis las **rdo rje theg pa** / sngags phyi nang gnyis las **bla med** / de la rgyud dang **man ngag** gtsor byed pa'i lugs srol gnyis las phyi ma'i ring lugs gtsor bton pa sgrub brgyud shing rta'i lam srol chen po brgyad du grags pa ste / de dag gi sgom don rim par 'chad pa'i phyir /
- (10) Prajñāraśmi の自伝については Deroche 2009; 2011a; 2011b を参照。
- (11) TSCD, 231.5–232.1: gangs can smra ba'i srol 'byed saṃbho ṭa // dgra gegs log 'dren tshar gcod badzra shri // mdo sngags bstan pa'i gzhir gyur pa gor zhabs // mtshungs bral bod kyi sgra bsgyur ka lcoq zhang // (snga 'gyur lo paṅ skyes mchog gi skor phal mo che rnams zur du bsal /) rgyal bas lung bstan sprul pa'i lo chen gnyis // gnas lnga rig pa'i mthar son sa skya pa // yongs rdzogs bstan pa'i mnga' bdag rin chen grub // byang phyogs bshad rgyud 'deggs pa'i ka chen bcu // (TSCDC, 329.3–330-1.)
- 従って、釈義の系統 (shad brgyud) の起源である十柱 (ka chen bcu) は次の通りである : 1. Thon mi Sam bho ṭa (circa 619 生); 2. Vajra Śrī (Padmasambhava?); 3. Pa gor Vairocana (8 世紀); 4. sKa ba dpal brtsegs (8 世紀); 5. Cog ro klu'i rgyal mtshan (8 世紀); 6. Zhang Ye shes sde (8 世紀)。次の二人の偉大な翻訳家 (*lo chen gnyis*) を特定するための更なる情報が後に引用する Kong sprul の著作の中に見い出せる : 7. Rin chen bzang po (957–1055); 8. rNgog Blo ldan shes rab (1059–1109)。最後の二柱は : 9. Sa skya paṇḍita Kun dga' rgyal mtshan (1182–1251); 10. Bu ston Rin chen grub (1290–1364)。Kong sprul は身元の明らかでない Vajra Śrī の代わりに、Gnubs chen Sangs rgyas ye shes (11 世紀) を含んでいる。SK, vol. 1, 504.1–2: chos slob thon mi bai ro ska chog zhang // **gnubs chen rin bzang rngog lo sa skya pa** // bu ston bshad rgyun 'deggs pa'i ka chen bcu //
- (12) GCD, 244.1–251.5. GCDC, 347.5–374.6.
- (13) GCD, 246.1–247.1. GCDC, 349.1–351.4.
- (14) GCD, 247.1–247.4. GCDC, 351.4–353.6.
- (15) GCD, 247.4–248.2. GCDC, 353.6–355.4.
- (16) GCD, 248.2–249.1. GCDC, 355.4–358.2.
- (17) GCD, 249.1–249.5. GCDC, 358.2–362.4.
- (18) GCD, 249.5–250.1. GCDC, 362.4–366.1.
- (19) *A li ka li gsang ba bsam gyis myi khyab pa chu klung chen po'i rgyud*. In *Zhi byed snga bar phyi gsum gyi skor*, 5 vols. Thimphu: Druk Sherik Parkhang, 1979, vol. 1, pp. 6–114.

## ——チベットにおける折衷主義の価値——

- (20) GCD, 250.1–250.5. GCDC, 366.1–371.1.
- (21) GCD, 250.5–251.2. GCDC, 371.1–374.1.
- (22) GCD, 251.5–254.4.
- (23) 本稿 4.1 の引用箇所を参照。
- (24) GCD, 251.4–258.4.
- (25) GCD, 257.1–2: dpyad dang 'jog pa'i sgom tshul ci yang rungs // rang gi mtshan nyid rang bzhin 'od gsal ba // gsal d[w]angs shar la sgom med ma yengs pa // sgrub rgyud kun gyi sgom pa'i gtso bo yin [/]/「[心の] 吟味考察と [心の] 位置づけに関する瞑想の流儀が何であれ, [心の] 自相にして本性光輝き, 明瞭に清らかに顕現し, 無修にして無散乱なるもの, [それが] すべての修行系譜の瞑想の核心である。」
- (26) GCD, 258.4–261.4.
- (27) GCD, 261.4–263.1.
- (28) GCD, 262.5–6: spang bya'i khyad par 'pho ba'i bag chags te // bde chen ye shes gnyen pos bcom pa las // yan lag brgyad ldan longs sku'i sangs rgyas 'byung // srol chen brgyad kyi 'bras bu'i mthar thug yin // 「特に捨てられるべき転生の習気を対治たる大楽の智が克服することにより, 八つの性質を持つ報身の仏陀が現れる。[それは] 八つの偉大な伝統における果の究極である。」
- (29) GCD, 263.1–266.5.
- (30) GCD, 245.4–246.1: dpal ldan rdo rje 'chang nas legs 'ongs pa'i // gangs ri'i khrod 'dir bsgrub rgyud srol chen brgyad // de dag grub thob gong ma'i gshegs shul yin [/]/ thar 'dod rnam kyang lam de'i rjes su zhugs // (GCDC: 348.6–349.1.) 「誉れ高き持金剛仏に完全に由来するここ雪山の隠遁地におけるそれら修行系譜の八つの偉大な伝統はかつての成就者たちの足跡である。解脱を望む者たちもその道に従う [べきである]。」因みに, これは 2006 年に高野山大学にて行われた密教学会において議論された “Identity in Diversity”, すなわち到達点と伝統の多様性の統一の原理に大変よく適合するものである (Koyasan University 2008)。
- (31) SK, vol. 2, 557.12–19. Kong sprul の折衷主義における他空の役割については, *Ris med chos 'byung*, 6–8, 44 を参照。
- (32) Sūtra-Madhyamaka の箇所については, Kumagai 2009 を参照。
- (33) SK, vol. 2, 557.9; (英訳) Jamgön (2007, 268–272)。以下の注の SK には同様全て対応する英訳がある。
- (34) SK, vol. 2, 557.23–24.
- (35) SK, vol. 2, 557.24–558.1.
- (36) SK, vol. 2, 558.2–4.
- (37) SK, vol. 2, 558.1.
- (38) SK, vol. 2, 558.14.
- (39) SK, vol. 2, 558.16.
- (40) SK, vol. 2, 558.16–17.
- (41) SK, vol. 2, 558.18–20.
- (42) SK, vol. 2, 558.17.
- (43) SK, vol. 2, 558.24.
- (44) SK, vol. 2, 559.7–9.
- (45) NgG, f. 20b.5–6; (英訳) Ehrhard 1998, 145.
- (46) rig pa に高い地位を与えていることから, *Kun byed rgyal po'i rgyud (Sarvadharmamahāsantibodhicit takulayarāja, Chos thams cad rdzogs pa chen po byang chub kyi sems kun byed rgyal po; Pekin Otani No. 451; Derge Tōhoku No. 828)* は rDzogs chen の伝統における根本的なタントラの一つである。

——チベットにおける折衷主義の価値——

和文章稿の添削にご協力頂いた御牧克己先生，宮崎泉先生，加納和雄先生に深く感謝を申し上げます。